

グループ名 ・代表者名	「脱原発世界会議」実行委員会 実行委員長 吉岡達也	助成金額	350 万円 当初助成 50 万円＋ 事業指定寄付による 追加 300 万円
連絡先など	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1 ピースポート内 Tel 03-3363-7561 Fax 03-3363-7562 http:// npfree.jp office@npfree.jp		
助成のテーマ	「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」の開催 ー福島を経験を世界の市民と共有し、教訓と行動提言を生み出す		

【取り組みの概要】 (調査研究・研修のねらい・手法・成果など)

2011 年 9 月に実行委員会が発足してから約 4 カ月で開催するというきわめて限られた条件の下であったが、2012 年 1 月 14～15 日の「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」は大きな成果を上げた。

会場のパシフィコ横浜には、海外からの約 30 カ国約 100 名を含め、初日 6,000 人、2 日目 5,500 人、あわせてのべ 1 万 1,500 人が参加した。会議はインターネットで全世界に中継され、約 10 万人が視聴した。海外からの参加者ら約 70 名は、会議前日に福島の一日視察を行った。世界の専門家らが福島の住民がおかれている状況に直接触れる貴重な機会となった。

閉会にあたり発表された「原発のない世界のための横浜宣言」は、①福島の被災者の権利、②日本政府と東電の説明責任、③住民の被ばく最小化、④世界的な脱原発の工程表づくり、⑤日本は停止中の原発を再稼働しないこと、⑥途上国への原発輸出の禁止、⑦地方自治体の役割などを強調し、福島を支援する国際ネットワークを進めることをうたった。横浜宣言の呼びかけのもと、続く 3 月 11 日には全世界でさまざまな行動が取り組まれた。会議参加者から出された多様な行動の提案は、「原発のない世界をつくる行動の森」というウェブサイトにもまとめられ、今後の行動の多様な手がかりを提供している。

会議の中から、国際的には「東アジア脱原発自然エネルギー 311 人宣言」という行動ネットワークが生まれ、国内的には「脱原発をめざす首長会議」が発足した。今後は、これらのネットワークまた組織との連携をしつつ、さらに行動を発展させていく。

多数の協力団体、後援団体・企業、賛同団体、ボランティアの存在、100 を超える団体による「もちこみ企画」の実施とそこにみられた熱気は、脱原発のための日本の市民社会の底の厚さを示した。世界会議がみせた参加者層の広がり、さらに大きな国内的な力にしていくなために多様な主体間のコーディネートに力を入れる。

福島から世界会議に参加した約 20 の市民団体は、会議終了後定期的に「懇談会」を開催している。これに対して、世界会議を機に福島とつながった世界の非政府の専門家らの関与を継続させて、福島に対する国際支援の体系化に取り組んでいく。

【実施の経過】 (取り組みの具体的な経過：主要な出来事のみ)

- ・ 2011.9 「脱原発世界会議」実行委員会発足
- ・ 2011.9～12 「脱原発世界会議」に向けた記者会見や事前イベントなど多数
- ・ 2012.1.13 「脱原発世界会議」海外ゲスト福島視察
- ・ 2012.1.14～15 「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」パシフィコ横浜にて開催
- ・ 2012.2～4 「脱原発世界会議」実行委員会にて総括、財政締め、今後についての議論等

会計報告書の概要 (金額単位：千円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	海外ゲスト 21 名招聘費用 600 万円、国内ゲスト招聘費用 140 万円、福島視察関連費用 320 万円他	10,603	3,500	3,873	3,230
機材・備品費		8,909	0	70	8,839
会議費		11,980	0	2,300	9,680
印刷費		2,124	0	100	2,024
協力者謝礼など		1,957	0	70	1,887
人件費		3,930	0	0	3,930
外部委託費		6,012	0	2,227	3,784
運営経費		1,657	0	787	869
その他		6,872	0	0	6,872
合 計		54,045	3,500	9,428	41,117